



西新潟中央病院

NST NEWS 第23号

NST : Nutrition Support Team

発行日：2015年10月6日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1303

NST委員会からのお知らせ ～第2回 高齢者の栄養と摂食を支える研究会開催報告～

先月9月26日の土曜日、「高齢者の栄養と摂食を支える会」の第2回研究会が新潟ユニゾンプラザにて開催されました。その内容についてご報告させていただきます。

1. 講演「地域連携を摂食嚥下の視点より考える」

高崎総合医療センター 歯科口腔外科医長 稲川元明先生



・摂食嚥下障害について

- A) 誤嚥性肺炎は唾液などの分泌物を誤嚥すると生じやすい（食事だけが原因ではない）。
⇒就寝時の唾液誤嚥を防ぐことは難しいため、口腔ケアにより細菌を減らすことが重要。
口腔ケアを行うことにより肺炎の発生が40%減少する（米山ら、1996）。
- B) 義歯未装着の方は、義歯の修正・装着を行うことで嚥下障害が改善することがある。

・摂食嚥下と地域連携について

- A) 多病院における嚥下食の統一をはかるため、高崎摂食・嚥下統一検討会を開催。
⇒各施設が嚥下食を持ち寄り、名称や形態について確認。施設ごとの嚥下食が他施設のどの食事に該当するのか、一目で分かる一覧表を作成した。
これにより、転院や施設入所の際の食事の選択が非常にスムーズになった。
- B) 週に1度の摂食・嚥下外来、他施設への往診の取り組みを進めている。

高崎総合医療センターは常勤の歯科医師が5名、言語聴覚士が3名、歯科衛生士が3名勤務しており、摂食嚥下と口腔ケアに関して非常に手厚く、先進的な取り組みを行われていました。

2. 多職種ワークショップ 「高齢者の栄養を一緒に考えてみよう」

研究会の後半では参加者がグループに分かれ、実際の症例「誤嚥性肺炎による入院を繰り返す男性患者」について症例検討を行いました。



ワークショップの様子



終始和やかな雰囲気での話し合いが行われました



この症例は退院直後に誤嚥性肺炎を起こして再入院を繰り返していましたが、退院前に施設職員に病院に来て頂き、食事の状況や口腔ケア、肺炎が疑われる際の対応について直接説明をしたところ、再入院をすることなく過ごせるようになりました。顔の見えるカンファレンスの重要性がよく分かる症例でした。

（文責：栄養管理室 澤田周矢）